

Ateliers di Milano  
ミラノのクリエイター空間





## Jacopo Foggini

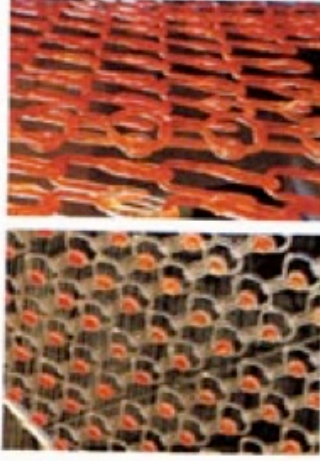
ヤコボ・フォグジニ／照明デザイナー

### ほんとうは立ち入り禁止の聖域にお邪魔しました

「僕のアトリエは誰にも公開しない主義だけど、今回は特別に」ということで、入れてもらったヤコボの短、中へ入ると何かを掴みつけてシャリシャリという音がする。プラスチック片がいたる所に散らばっているのだ。一見、廃材工場かのよう。

ヤコボはこのアトリエでプラスチックを造形して彫刻作品のような照明器具を作る。中央にはアラブの王様になるのだという数メートルもの長さのゴージャスなシャンデリアがぶら下がる。「機軸期だけは撮影しないでね」というので製造行程は秘密。ただ、作品には特殊な素材を使用している訳ではないことだけ書っておこう。アトリエの片隅では、いろいろなカタチのプラスチックが山積みになりカラフルで透明感のある丘をいくつも形成している。そして奥をよく観察するとプラスチックのパーツをパッチワークした一種のタペストリーが壁を覆っている。これぞアトリエのハイライトだ。裏面に設置された照

明とアトリエ各所のライティングをONにする……と、ずいぶん光が差し込むとアトリエは一転して、カラフルな南国の島たちに囲まれながらエメラルドの海をダイビングしているような幻想的楽しさに包まれる。まるでマジックを見せられたようだ。以前にヤコボの自宅にある作品のプチミュージアムを訪れたことがある。こちらは、純白の空間に作品をインスタレーションしてあって、一番つまずいていないような見事に完成された場所だった。ただ、これは対照的にプラスチックの臭いと破片にまみれた雑多なアトリエの方がより魅力的に見えるのはなぜだろう。アトリエには作品の完成したカタチよりも、そこに至るまでのさまざまな過程の断片が濃厚に散らばっているからだろうか。訪問者はそこで、何かを飲み見るようなスリリングな楽しみを感じてしまう。なるほどヤコボが自分のアトリエに邂逅するのも分がからいではない。



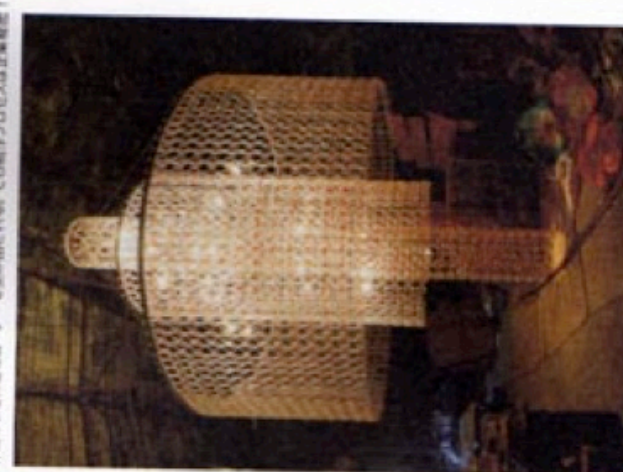
アトリエにはこんな素材のほしくれ山ほど集まれている。



作品はまさにこのコーナーで生み出される。でも制作プロセスは是非秘密!



光の湯を漂うラグマットは小島も捨てがたい。



これがアラブの王様のもとに贈られるという巨大照明器具。